



市内を流れる飯盛川

Q

EMできれいなまちづくり

A

市でも必要な支援を行う

川合 利枝 議員

質問一 高圧洗浄による学校トイレとプール清掃にかかる費用対効果について。

二 ユスリカ、汚濁度における水の水路について。

三 「有用微生物群EMと活用」について学ぶ講座の開催について。

答弁一（教育委員長） 高圧洗浄経費を過去3年間の実績で計算すると、1校当たり平均46万円となる。また、清掃することにより、臭気の原因である尿石等が除去され、配水管の流れも改善した。学校のプールは、使用開始前に児童、生徒が中心となって清掃を行っている。

二（市長） ユスリカの発生は、浄化されない生活排水が直接水路に流れ込むことが要因の一つと考えられる。

都市下水路である大谷川等では水量が減少する時期に悪臭が発生するときもあり、その際は、坂戸、鶴ヶ島下水道組合と連携して対応している。

三 市民による環境講座の開催については、市でも必要な支援を行っていく。

◎その他の質問

一 高齢者の安心安全のまちづくり

二 女性のがんだ対策について

A

命を守るため適切な対策を講じる

Q

子どもの命を救う対策を

松村 和子 議員

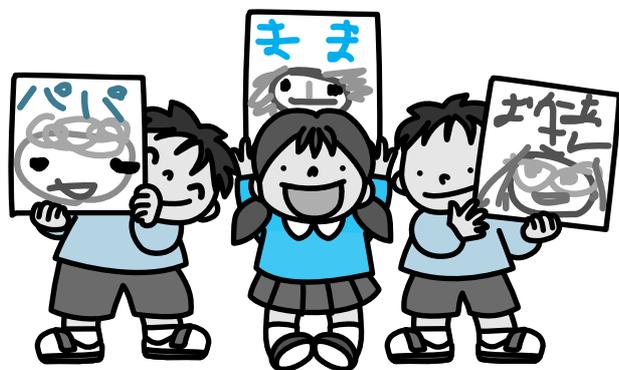
質問一 WHOも接種を勧告している、乳幼児へのヒブワクチンの定期接種を。

二 20代から30代の女性に急増している子宮頸がんを予防するワクチン接種に公的補助を。

三 子供医療費の窓口払い廃止と中学生までの通院医療費無料化を。

答弁一（市長） ヒブワクチン接種は、安定供給、接種財源、副反応等に対する補償問題などの課題があるが、市としても国、県へ定期接種化に向け働きかけていく。

二 若い世代の子宮頸がんは性体験の低年齢化も一つの原因と考えられており、がん検診や適切な性



教育などの予防の取り組みが必要である。国で定期接種化が検討されていることから、助成措置については、医師会の意見を参考に適切に対応する。

三 平成23年度中の子供医療費窓口払いの廃止に向けて準備している。子供医療費の対象年齢拡大は、窓口払いの廃止後に、社会情勢や財政状況等を勘案して考える。

◎その他の質問

一 膨大な資金を投入する圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺地域開発はやめて

二 市民の生活環境を悪化させる東京電力送電線50万ボルト西上武幹線工事中止を